



Red Hat と AWS を使用した IBM Maximo Application Suite への移行

IBM Maximo 7.6.1 は 2025 年 9 月にサポート終了となるため、現在ご利用中のユーザーは資産管理ワークフローを IBM Maximo Application Suite (MAS) に [移行する必要があります](#)。MAS は IBM Maximo Manage アプリケーション (IBM Maximo 7.6.1 を直接置き換えます) と他のさまざまな IBM Maximo アプリケーションを含む包括的な資産ライフサイクル管理ソリューションであり、コンテナ化されて Red Hat® OpenShift® 上で実行されます。

このチェックリストでは、[Red Hat Ansible® Automation Service on AWS](#) のサポートを活用して資産管理ワークフローを [Red Hat OpenShift Service on AWS](#) 上の MAS に移行する 4 つのメリットについて概説します。

1 フルマネージドの統合プラットフォームで始める

資産管理ワークフローを Red Hat OpenShift Service on AWS に移行することで、あらゆるハイブリッドクラウド環境でアプリケーションを構築、デプロイ、管理するための包括的なマネージド・プラットフォームが実現します。これは、Red Hat と AWS が共同でサポートするファーストパーティの Amazon Web Services (AWS) サービスであり、あらゆる AWS ツールおよびソリューションと完全に統合されています。

これは、以下のことを実現するのに役立ちます。

- ▶ **より迅速な立ち上げ**: Red Hat OpenShift の組み込みツールとサービスには、統合、セキュリティサポート、自動化に必要なものがすべて揃っています。さらに、AWS と完全に統合されているため、AWS コンソールから直接購入し、ニーズが増大したときはネイティブ AWS サービスを活用できます。
- ▶ **資産の管理に集中**: MAS アプリケーションを実行するために Red Hat OpenShift クラスタをプロビジョニング、管理、保守する必要はありません。クラスタのライフサイクル管理と Day 2 オペレーションの自動化およびオフロードによるメリットを享受できます。
- ▶ **自信を持って運用**: 複数のチャネルで共同提供されるエキスパートのサポートサービスを利用してことで、コンテナに関するチームの現在の知識レベルに関係なく、ニーズを満たすことができます。

2 効率的でスケーラブルなプラットフォーム上ですべてのアプリケーションを一貫して実行

ほとんどの組織には、MAS アプリケーションと並行して実行する必要のあるさまざまなアプリケーションがあります。Red Hat OpenShift Service on AWS は、任意のハイブリッド環境またはマルチクラウド環境において優れた一貫性、効率性、拡張性でアプリケーションを実行できるプラットフォームを提供します。

これは、以下のことを実現するのに役立ちます。

- ▶ **すべてのワークフローを並行して実行**: 使い慣れた Red Hat OpenShift のエクスペリエンスを使用して、オンプレミス、ハイブリッド/マルチクラウド・インフラストラクチャ、エッジデプロイメントを含むあらゆる環境間で一貫した管理が可能です。
- ▶ **運用全体の複雑さを軽減**: コンテナ化されたアプリケーション、最適化された統合、自動アップデートとパッチにより実現されます。
- ▶ **変化する要求に適応**: スケーラブルな AWS グローバル・インフラストラクチャと Red Hat OpenShift クラウドネイティブ機能を組み合わせることで、パフォーマンスを損なうことなく実現できます。

3 サポート付きの認定自動化コンテンツで移行を効率化

Ansible Automation Service on AWS は、エンタープライズ規模の自動化機能を備えたフルマネージド・プラットフォームを提供します。この機能は、プラットフォームのデプロイとリソース・オーケストレーションを自動化することで、大規模な移行をサポートおよび効率化できます。

また、インストールと構成用に Red Hat と IBM が共同で構築したサポート付き認定自動化コンテンツである [MAS DevOps Ansible Collection](#) へのアクセスも提供し、移行のユースケースをサポートします。

これらは、以下のことを実現するのに役立ちます。

- ▶ **MAS のデプロイを単純化**：ソリューション構成のフルコントロールを維持しながら Red Hat OpenShift Service on AWS へのデプロイを単純化します。これにはデータベースの移行も含まれます。
- ▶ **クラスタ外リソースのオーケストレーションの効率化**：対象には、ネットワーク、セキュリティツール、物理インフラストラクチャ、Software-as-a-Service (SaaS) ツールと、クラウドネイティブのインフラストラクチャおよびサービスが含まれます。
- ▶ **時間と費用の節約**：自動化プラットフォームの管理とメンテナンスの責任を Red Hat と AWS に任せることができます。

さらに詳しく

ワークフローを Red Hat Ansible Automation Service on AWS で Red Hat OpenShift Service on AWS 上の MAS に移行するメリットの詳細についてご覧ください。



Red Hat について

Red Hat は、受賞歴のあるサポート、トレーニング、コンサルティング・サービスをお客様に提供し、複数の環境にわたる標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。

4 自動化された Day 2 オペレーションで信頼性と一貫性を維持

Ansible Automation Service on AWS のメリットは、Red Hat OpenShift クラスタへの MAS のインストールと構成に関するものだけではありません。移行された仮想マシン (VM) の Day 2 オペレーションを自動化し、それによってインフラストラクチャ全体の信頼性と一貫性を向上させることも可能です。

MAS Execution Environment for Ansible Automation Platform は、Red Hat がサポートする公式の実行環境を基にして IBM が構築したもので、これにより、MAS 向けの認定コレクションを使用して簡単に自動化を実行できます。Red Hat の Ansible コレクション ([AWS 向けのものも多数あります](#)) を使用すると、Red Hat および AWS の自動化ワークフローと並行して [MAS 向けの自動化ワークフローを設定](#) でき、これによりサービスのデプロイとオーケストレーションが単純化されます。

これらは、以下のことを実現するのに役立ちます。

- ▶ **継続的なメンテナンスの効率化**：クラウド運用、ライフサイクル管理、コンプライアンス、アップデートとパッチ適用など、主要な Day 2 プロセスを自動化します。
- ▶ **一貫性の確保**：構成の一貫性を保ち、すべてのアプリケーションとワークフローのコンプライアンスを維持するのに役立つ自動化されたワークフローにより、MAS 運用全体で一貫性を確保できます。
- ▶ **信頼性の向上**：バックアップリストア、障害復旧などのビジネス継続性ワークフローの自動化により実現します。

今すぐ始める

AWS Console から直接 Red Hat OpenShift Service on AWS を購入する方法、および AWS Marketplace で Red Hat Ansible Automation Service を購入する方法を [ご覧ください](#)。